観峰館収蔵品目録（X）―法帖（五）後漢の隷書碑二―

観峰館学芸部

はじめに

観峰館では、近代中国書画を中心とする約二万五千点に及ぶ収蔵品の継続的な調査研究を実施している。本稿は、その成果公表を目的としたものである。

第十五号より法帖を取り上げており、第九回からは、後漢（二五～二二〇）に制作された隷書碑の拓本を収録した法帖五十三点を紹介する。これらを、収録されている石碑によって分類すると、漢安二年（一四三）の「北海相景君碑」から中平四年（一八七）の「陳寔碑」まで、全二十五件となる（第十八号【表1】）。この中には、「乙瑛碑」や「曹全碑」などの著名な石碑だけでなく、「孔謙碣」や「孔彪碑」など、現在の隷書学習においてはあまり用いられることのない石碑も含まれている。

本稿には、（九）「衡方碑」から（二十）「尹宙碑」まで、十二件二十二冊の法帖を対象として実施した調査の成果を掲載する。画像は、精拓本あるいは翻刻本を掲載するほか、跋文や収蔵印、旧蔵者による題箋の書入れ等の情報も提示することとする。

先学諸氏の批正をいただければ幸いである。

【凡例】

一、法量は、縦×横（cm）で表記した。

一、制作年代は、建碑の年代とした。

一、写真撮影／法量測定／釈文は、観峰館学芸部（瀬川／寺前／古橋）が分担し、編集は寺前が担当した。なお、釈文においては改行を「／」で表記し、判読不能の文字があった場合は「□」で表記した。

一、参考文献は枚挙に遑がないが、作品解説の執筆にあたっては、『中国書道辞典』（木耳社、一九八一年）、『書の総合事典』（柏書房、二〇一〇年）等を適宜参照した。

【作品解説】

（九）衡方碑

後漢、建寧元年（一六八）刻。碑は全二十三行、各行三十六字。衛尉卿となった衡方（生卒年不詳）の墓碑。文末に「門生平原楽陵、朱登字仲希書」とあり、書者名を知り得ることができる。書体は八分隷で、「西狭頌」に近いが、より方形に近く、独特の風格である。碑は、山東省泰安市の岱廟内に現存する。

当館は二点の法帖を収蔵し、共に額が含まれる。「碑―漢―０１８」は、題箋・跋共に「石農」[1]によるもので、「碑―漢―００３」（石門頌）と同様である。

【跋】

（一）

芸舟双楫以為魯公出於乙瑛南海論書以為／魯公出於郙閣余以為衡方之古逸茂美雄／強拙厚殆亦魯公所自也　石農題記

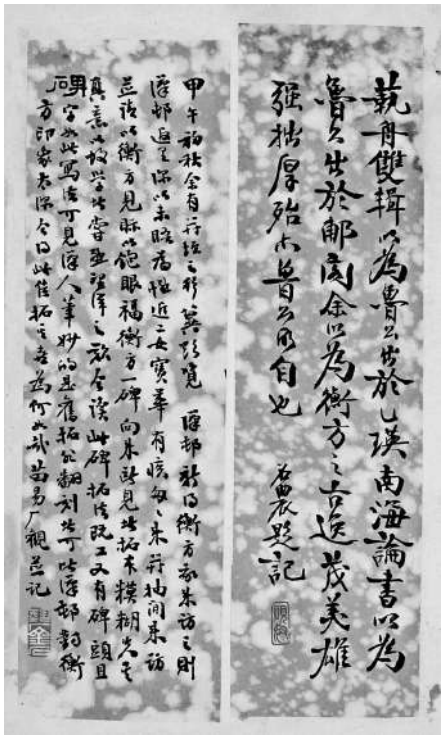
（二）

甲午初秋余有并垣之行冀欲覧漢郁新得衡方我来訪之則漢郁返里深以未晤為憾近二女宝華有疾毎々来并抽間来訪並請以衡方見眎以飽眼福衡方一碑向来断見此拓本模糊失其真意以故学此嘗感望洋之欲今読此碑拓法既工又有碑頭且碑字如此写法可見漢人筆妙的是旧拓非翻刻此可比漢郁対衡方印象太深今得此佳拓其喜為何如哉　苗易厂観並記

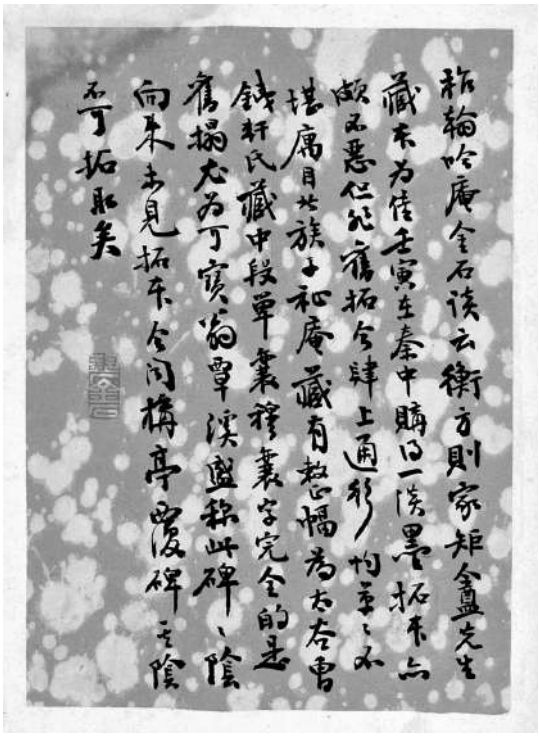
（三）

柞翰吟庵金石談云衡方則家矩盦先生／蔵本為佳壬寅在秦中購得淡墨拓本亦／頗不悪但非旧拓今肆上通行均草々／不堪寓目此族子秘庵蔵有整幅為太谷曹／鉄軒氏蔵中段単襄穆襄字完全的是／旧搨尤為可宝翁覃溪盛称此碑々陰／向来未見拓本今聞構亭覆碑其陰／不可拓取矣

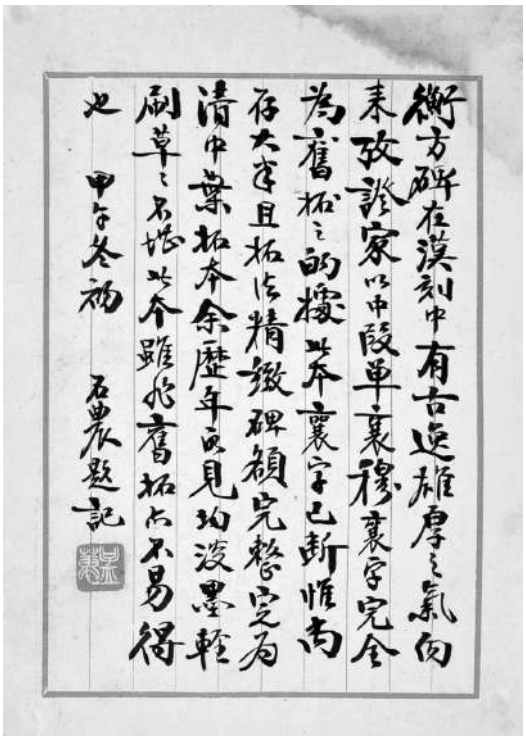
衡方碑の題箋二種
（碑―漢―018）



同　石農跋（一）（二）



同　石農跋（三）



同　石農跋（四）

（四）

衡方碑在漢刻中有古逸雄厚之気向／来攷証家以中段単襄穆襄字完全／為旧拓之的拠此本襄字已断惟尚／存大半且拓法精緻碑額完整為／清中葉拓本余歴年所見均淡墨軽／刷草々不堪此本雖非旧拓亦不易得也　甲午冬初　石農題記

（十）楊統碑

後漢、建寧元年（一六八）刻。碑は早くに失われ、拓本により伝わり、本文は十四行、各三十五字、二行八字の篆額を有する。内容は、後漢時代の楊統の事績を称えたもので、楊震碑（後述）、楊著碑、楊君碑（後述）と共に「四楊碑」と称されることもある。

当館は一点の法帖を収蔵し、額と全文を知り得る貴重なものである。木製の扉の外題に「漢楊統碑　王氏珍蔵」、「文韶」の印影がある。観峰コレクションには、王文韶（一八三〇～一九〇八）旧蔵の法帖が複数所蔵されている。[2]

（十一）史晨碑

後漢、建寧二年（一六九）刻。碑陽（史晨前碑）は十七行、各行三十六字。碑陰（史晨後碑）は十四行、各三十六字。内容は、魯の太守・史晨が孔子廟の祭祀を盛大に行ったことを記したもので、碑陽は祭礼の必要性を説いた上奏文と孔子を称えたもの、碑陰は祭祀の様子が記されている。書風は沈着であり、結構が引き締まっている。碑は、山東省曲阜市にある漢魏碑刻陳列室（孔廟碑林）に現存する。

当館は三点の法帖を収蔵し、いずれも旧蔵者による印がある。この中、「碑―漢―０２２」は、（十）楊統碑と同じく、木製の扉の外題に「漢史晨碑　王氏珍蔵」、「文韶」の印影をもつ。

（十二）夏承碑

後漢、建寧四年（一七一）刻。原石は十四行、各二十七字。北宋時代・元祐年間に出土したものの、明時代・嘉靖年間に地震により倒壊した。重刻された本文は、十二行、各三十字である。その書は、八分隷の「奇品」と称されている。

当館は一点の法帖を収蔵する。拓調より重刻本と考えられる。跋文、収蔵印等はない。

（十三）孔彪碑

後漢、建寧四年（一七一）刻。碑は十八行、各行四十五字。孔子の子孫で博陵太守の孔彪（生卒年不詳）の徳を称えたもの。孔彪の

兄は孔宙（一〇三～一六三）で、孔宙碑は七年前の延喜七年（一六四）の刻に遡る。その碑は、史晨碑と同様に漢魏碑刻陳列室に現存するが、文字の摩滅が甚だしく、他の後漢隷書碑に比べ、不分明な部分が多い。近年、後に成立する曹全碑と結構法・用筆法における類似性を指摘する研究もある。

当館は二点の法帖を収蔵する。その中、「碑―漢―０２５」は題箋があり、「旧拓孔彪碑／四明石室珍蔵／退密并題」とある。

孔彪碑の題箋
（碑―漢―025）

（十四）西狭頌

後漢、建寧四年（一七一）刻。碑は二十行、各行二十字で、甘粛省成県の魚竅峡に現存する磨崖碑。内容は、武都太守の李翕が山道を修理したことを称えたもの。本文末尾には「仇靖」の署名があり、書者が知れるのは稀少である。書体は八分隷であるが、文字の懐が大きく大らかなであり、「漢碑の正則」とも称される。原石の右隣には、李翕が道路を修理した際に現れたという黄龍などの瑞祥の図像「五瑞図」が刻まれている。

当館は二点の法帖を収蔵する。篆額及び「五瑞図」題記は含まれていない。

（十五）郙閣頌

後漢、建寧五年（一七二）刻。碑は十九行、各行二十七字。西狭頌と同じく、李翕が析里橋を修理したことを称えたもの。一時、道路工事のため破壊されたが、現在は近隣の霊巌寺に復元・保管される。仇靖の撰文、仇絣の書であり、西狭頌と同一グループの建立であったと考えられる。

当館は一点の法帖を収蔵し、題箋に「明搨郙閣頌　校致攻堅完整□□」とあり、「欽明八十後珍蔵」印を押す。「欽明」は、「魯峻碑」「白石神君碑」等の旧蔵者でもある。題箋にある通り、「校致攻堅」の文字を残すものだが、明拓であるかは検討を要する。

郙閣頌の題箋
（拓帖―116）

同　「校致攻堅」部分と思われる箇所

（十六）魯峻碑

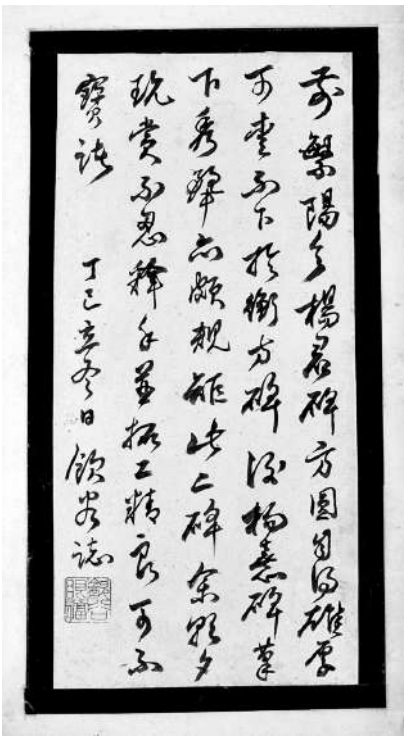
後漢、熹平二年（一七三）刻。碑は十七行、各行三十二字。司隷校尉を務め、熹平元年（一七二）六十二歳で没した魯峻（一一一～一七二）の頌徳碑である。元は墓所に建てられたが、現在は済寧博物館に移設された。

当館は二点の法帖を収蔵し、その中「碑―漢―０２８」は、郁閣頌と同じく「欽明」の旧蔵である。

（十七）繁陽令楊君碑[3]

後漢、熹平三年（一七四）刻。『隷弁』[4]に拠ると、「漢故繁陽令楊君碑」の篆額がある。碑は早くに失われ、伝わる拓本に拠ると、首尾が不完であり、四百三十字のみ確認できる。碑文には楊震の孫、楊牧（富波相）の子で、叔父は楊秉とあるが、名は不明である。楊統碑とともに、楊氏一連の碑である。

繁陽令楊君碑の題箋
（碑―漢―030）



同　飲谷跋

当館は一点の法帖を収蔵する。題箋に「繁陽令楊君碑　飲谷題」とあり、末尾に「丁巳立冬日飲谷題」の落款のある跋文を含む。

【跋】

前繁陽令楊君碑方円自得雄厚／可愛不下於衡方碑後楊憙碑筆／下秀麗亦頗規矩此二碑余朝夕／玩賞不忍釈手並拓工精良可不／宝諸　丁巳立冬之日　飲谷誌

（十八）婁寿碑

後漢、熹平三年（一七四）刻。碑は十三行、各二十五字。儒学者の婁寿（～一七四）の頌徳碑。篆額の「玄儒」とは、その諱である。石碑が建てられた熹平三年に七十八歳で没した。原石は亡失し、拓本は東京国立博物館に所蔵される一本のみという。

当館は一点の法帖を収蔵する。題箋は「漢婁寿碑　王氏珍蔵」とあり、王文韶の旧蔵品である。翻刻本と思われるが、「玄儒婁先生碑」の篆額、全文を知り得る点で貴重な拓本である。

（十九）韓仁銘

後漢、熹平四年（一七五）刻。碑は八行、各十六～十九字。碑文は建碑年の十一月二十二日付の二通の文書の形をとって記され、聞熹県長・韓仁の頌徳碑として、司令校尉が碑を建てたものである。金時代・正大五年（一二二八）に傾き埋没したものを、滎陽令の李輔之が発掘し、翌年に再建した経緯を示した題記が、碑文の左方に

刻まれている。篆額は「漢循吏故聞熹長韓仁銘」を二行に刻し、下に穿がある。碑は河南省滎陽の第六初級中学内に移置されている。

当館は一点の法帖を収蔵する。当館本は篆額が含まれる。

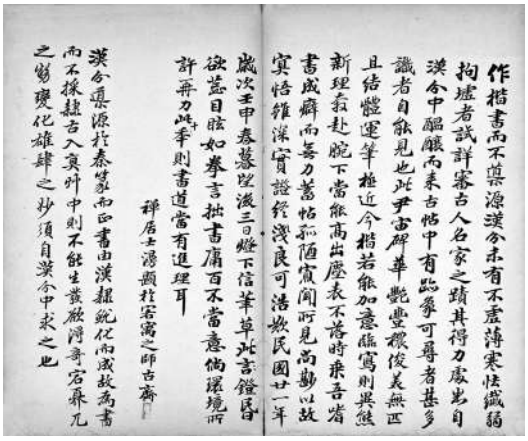
（二十）尹宙碑

後漢、熹平六年（一七七）刻。碑は十四行、各二十七字。碑の上部に穿があり、その右側に題額の一部である「従」「銘」の文字がある。元来は「漢故予州従事尹君之銘」と推測されている。尹宙（一一五～一七七）の事績はこの碑文でしか分からず、それに拠ると、字を周南といい、典籍に博通した有徳の人物で、潁川主簿、予州従事等を歴任し、六十二歳で没したという。書は端正で、筆画は温潤である。翁方綱はその書論において、「孔宙碑」（第十八号（六）参照）と共に「二宙」と称する。河南省鄢陵の孔子廟内に現存する。

当館は四点の法帖を収蔵し、その中、拓調の良い「拓帖―016」を掲出した。その外題は、「尹宙碑　碩斎／珍蔵」とある。また、「碑―漢―035」は、寄禅居士の跋を有する。

【跋】

作楷書而導源漢分未有不虚薄寒怯纖弱
拘墟者試詳審古人名家之蹟其得力処出自
漢分中醞釀而来古帖中有跡象可尋甚多
識者自能見也此尹宙碑華艶豊穣俊美無匹
且結體運筆極近今楷若能加意臨写則異態
新理奔赴腕下当能高出塵表不落時乗吾嗜
書成癖而無力蓄帖孤陋寡聞所見尚尠以故
冥悟雖深実証終浅良可浩歎民国廿一年

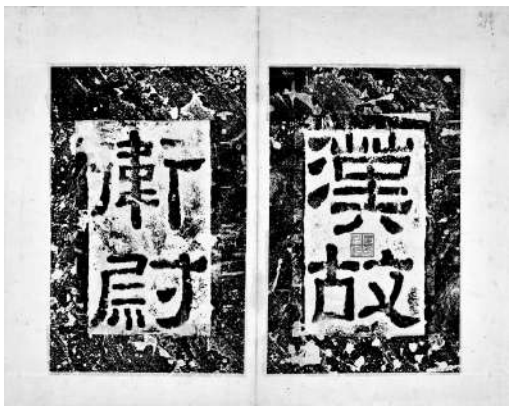


尹宙碑の寄禅居士跋
（碑―漢―035）

歳次壬申春暮望浚（後）三日燈下信筆草此言鐙昏
欲蕊目眩如拳言拙書庸百不当意倘環境所
許再力此十年則書道当有進理耳
禅居士漫題於客寓之師古斎

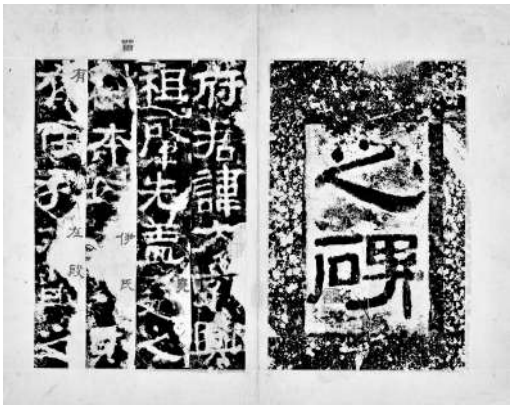
漢分導源於秦篆而正書由隷蛻化而成故為書
而不採隷古人真草中則不能生発欲得奇宕寡兀
之勢変化雄肆之妙須自漢分中求之也

〔注〕
（1）前号第十八号、注（1）参照。
（2）同、注（5）参照。
（3）同、【表1】は「楊震碑」としたが、内容より名称を改めた。
（4）顧藹吉編、康熙五十七年（一七一八）序。当館本は、資料番号が影―善活―050で、重刻本である。



衡方碑　第一開
（碑―漢―018）

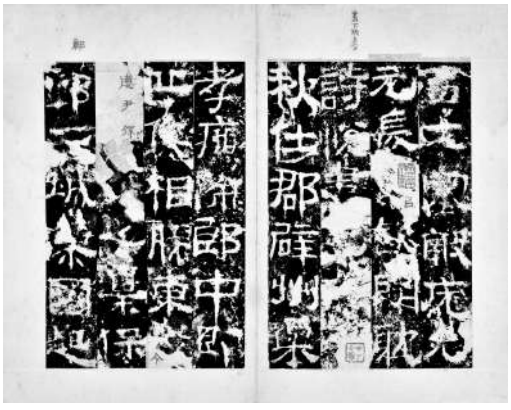
同　第二開



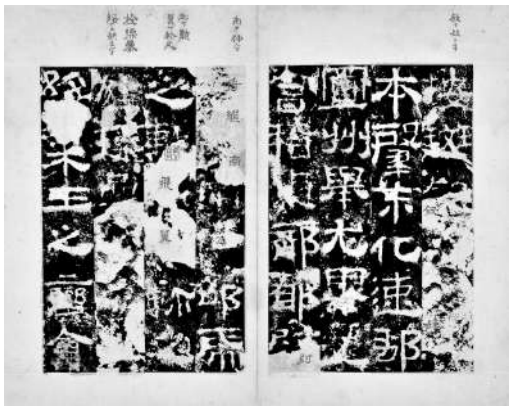
同　第三開

同　第四開

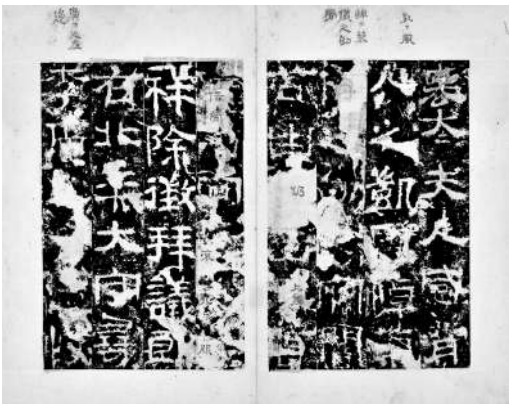
同　第五開



同　第六開

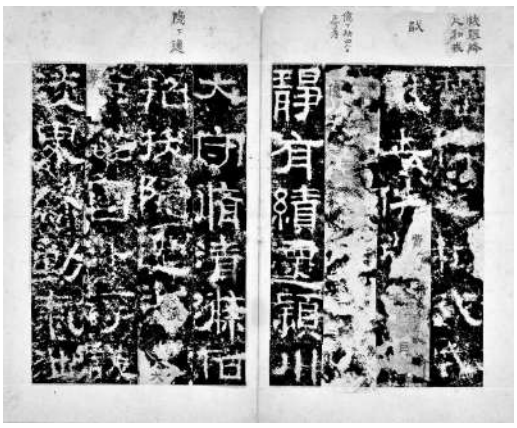


同　第七開

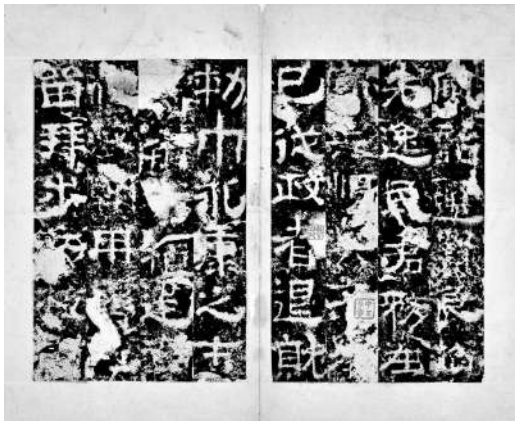


同　第八開

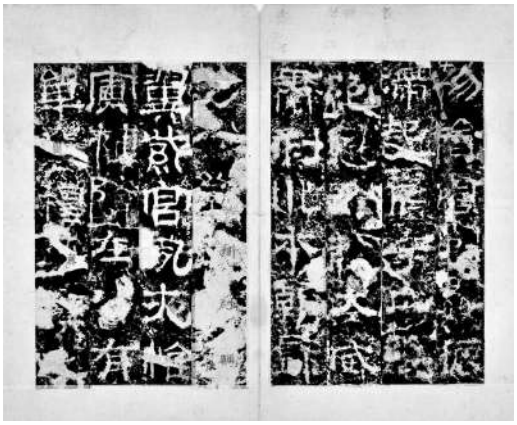
同　第十開



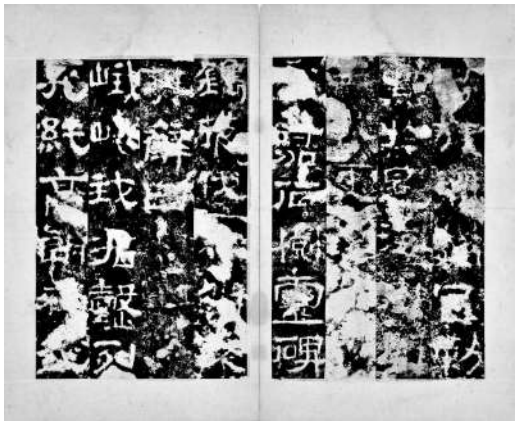
同　第九開



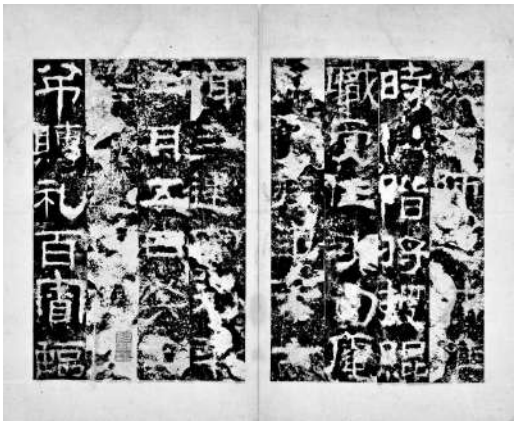
同　第十二開



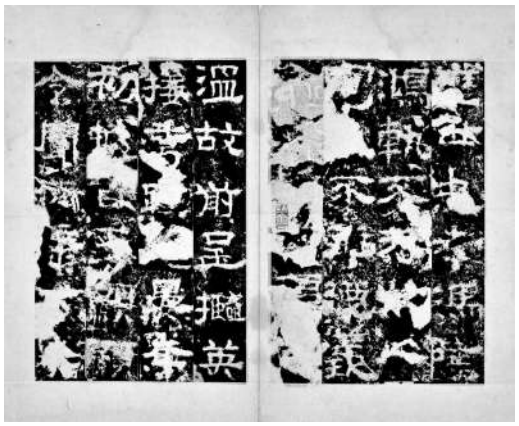
同　第十一開



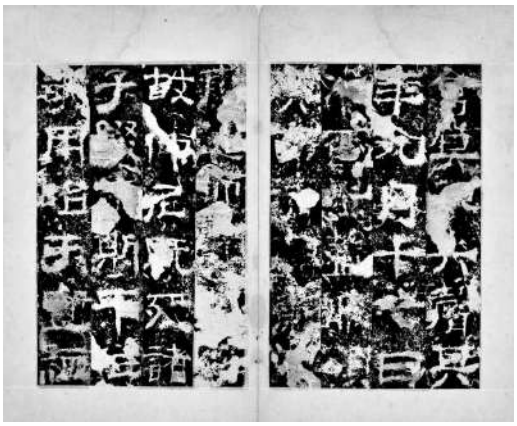
同　第十四開



同　第十三開



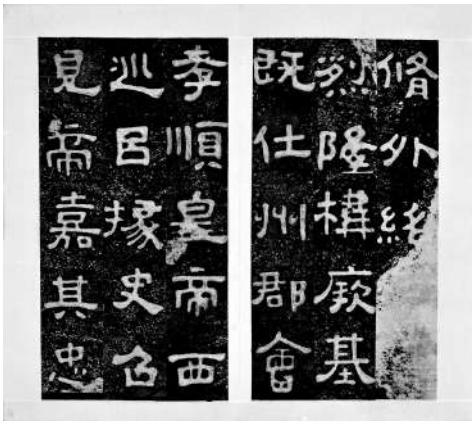
同　第十六開



同　第十五開

楊統碑　第一開
（拓帖—122）

同　第二開



同　第三開

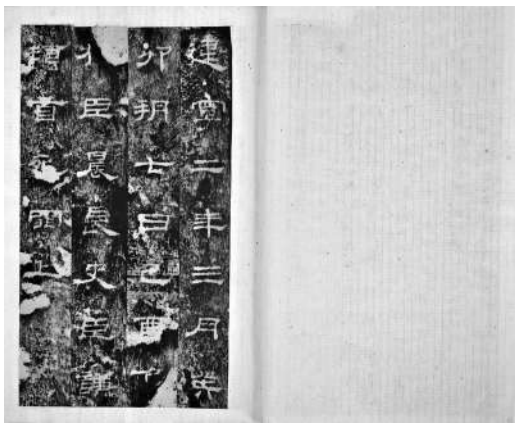
同　第四開

同　第五開

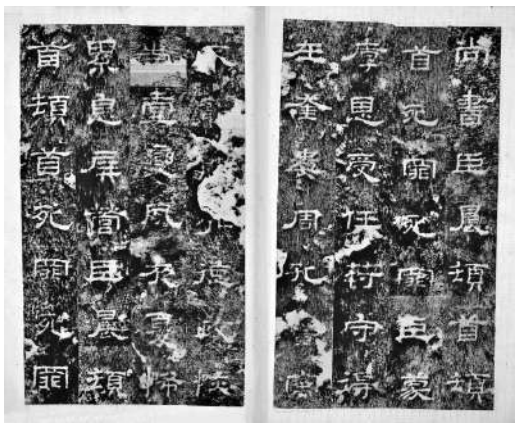
同　第六開

同　第七開

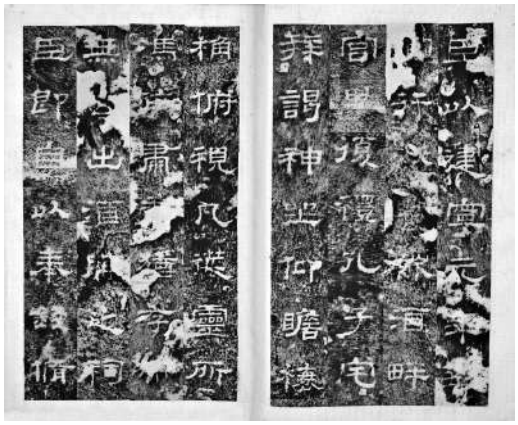
同　第八開



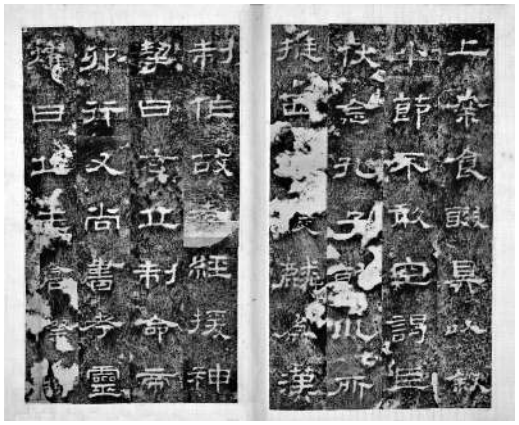
史晨碑　碑陽第一開
（碑—漢—021）



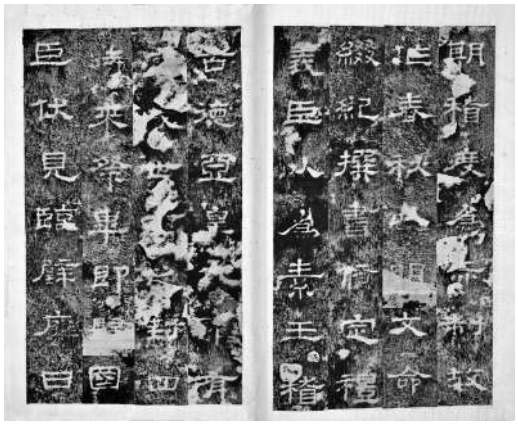
同　第二開



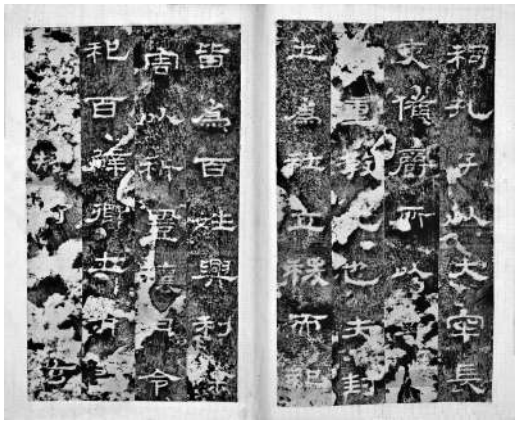
同　第三開



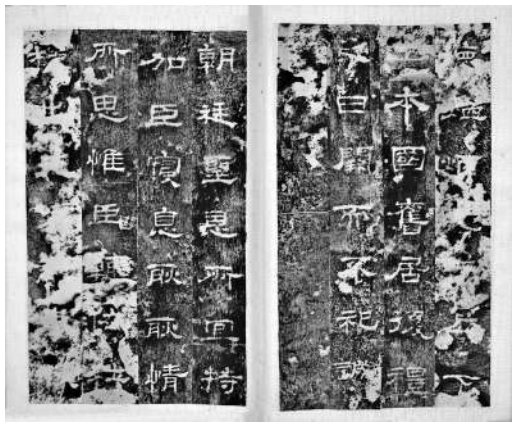
同　第四開



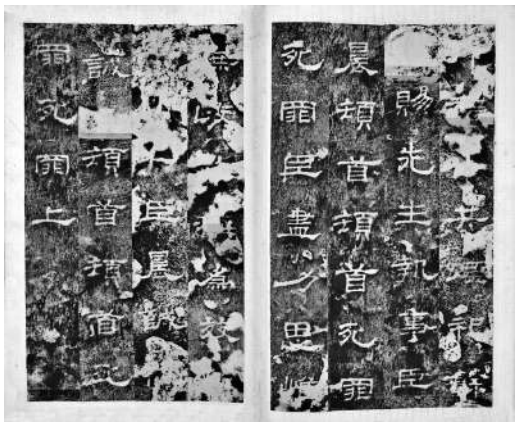
同　第五開



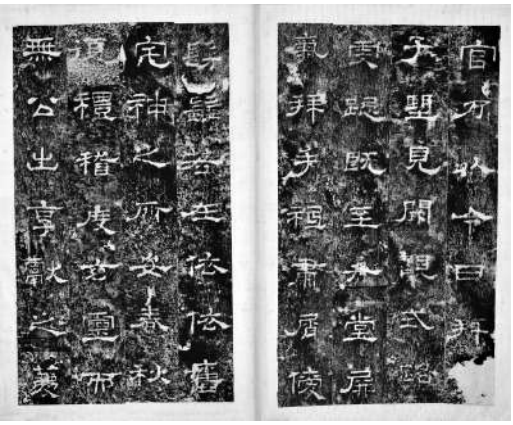
同　第六開



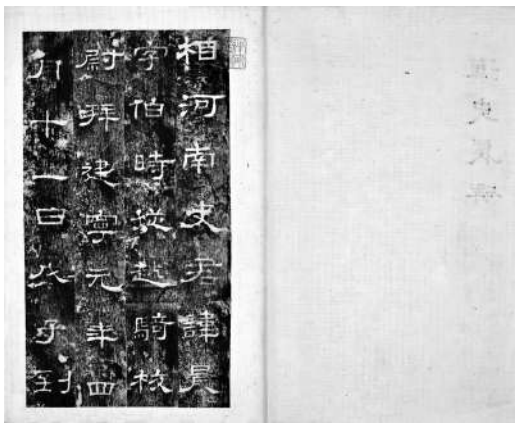
同　第七開



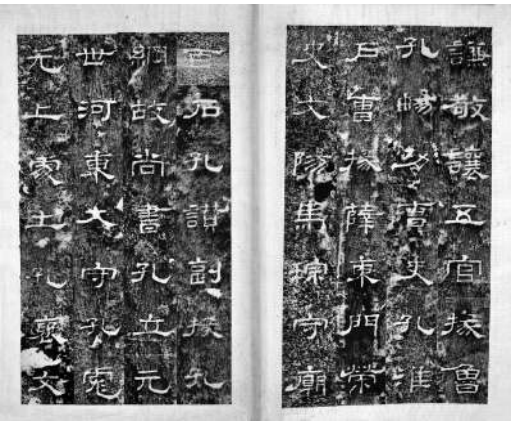
同　第八開



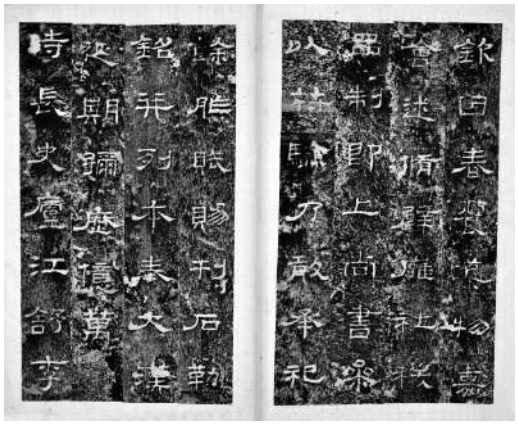
同　第二開



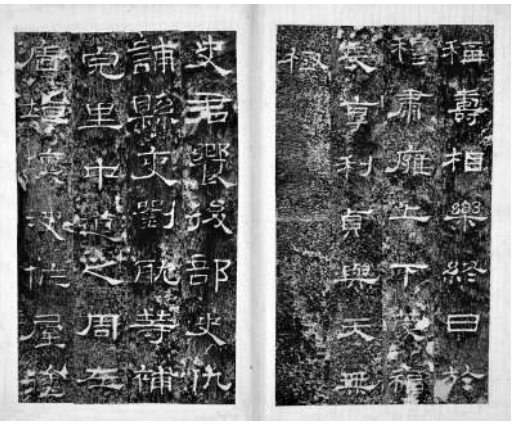
史晨碑　碑陰第一開
（碑―漢―021）



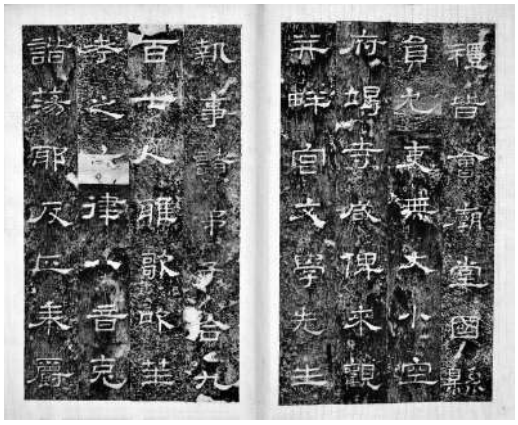
同　第四開



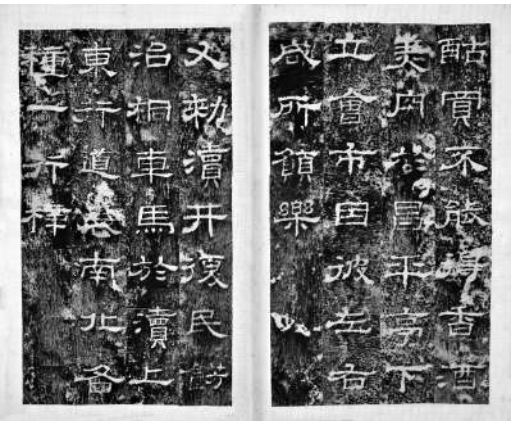
同　第三開



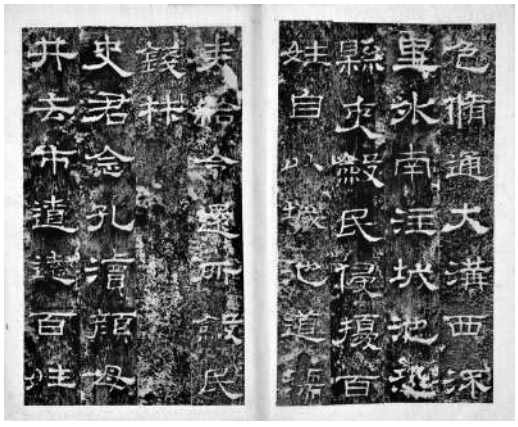
同　第六開



同　第五開



同　第八開



同　第七開

夏承碑　第一開
（碑—漢—023）

同　第二開

同　第三開

同　第四開

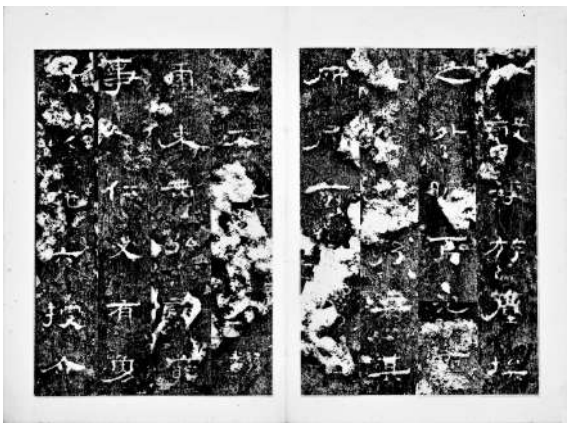
同　第五開

同　第六開

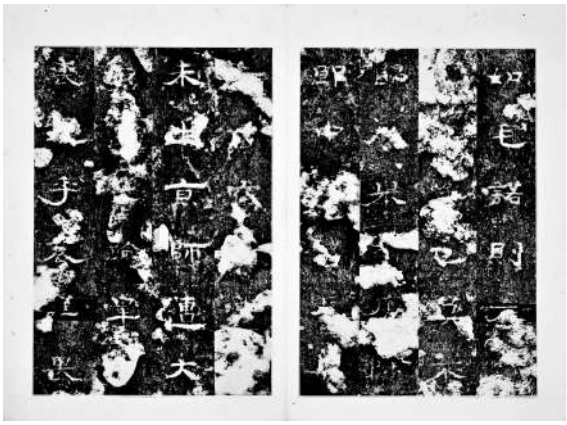
同　第七開

同　第八開

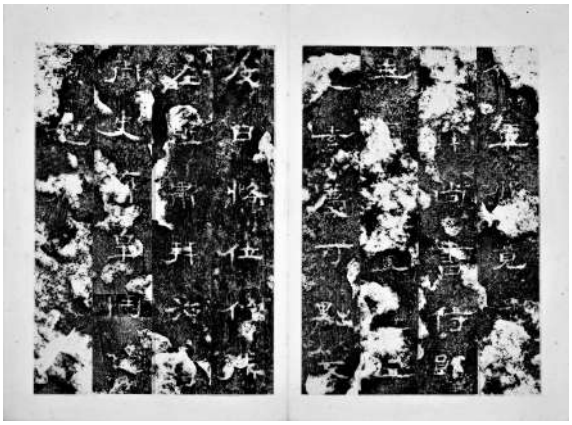
孔彪碑　第一開
（碑―漢―024）



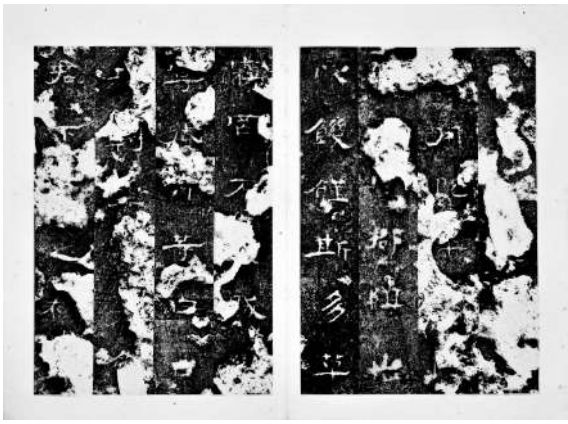
同　第二開



同　第三開

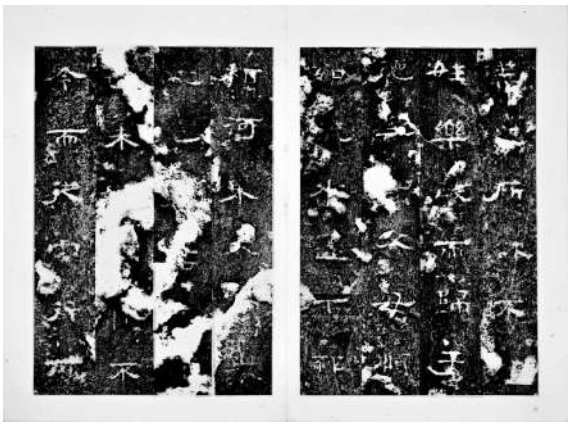


同　第四開



同　第五開

同　第六開



同　第七開

同　第八開

西狹頌　第一開
（碑—漢—026）

同　第二開

同　第三開

同　第四開

同　第五開

同　第六開

同　第七開

同　第八開

同　第十開

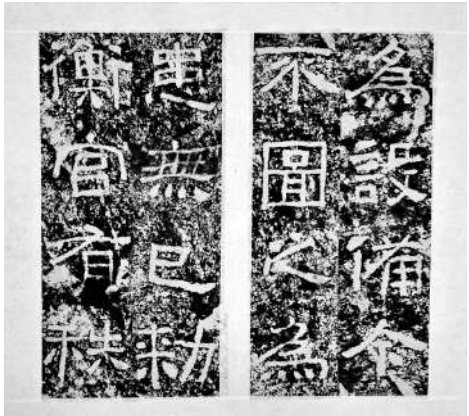
同　第九開

同　第十二開

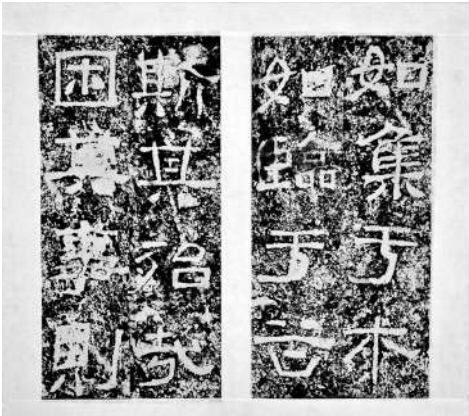
同　第十一開

同　第十四開

同　第十三開



同　第十六開



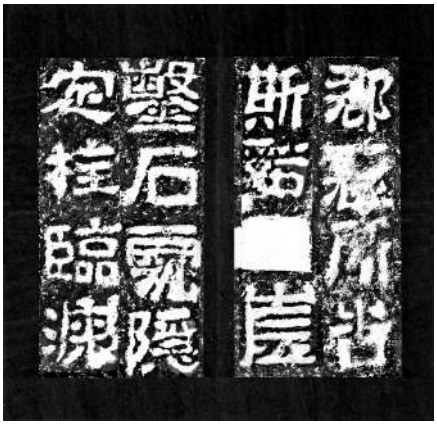
同　第十五開

郙閣頌　第一開
（拓帖—116）

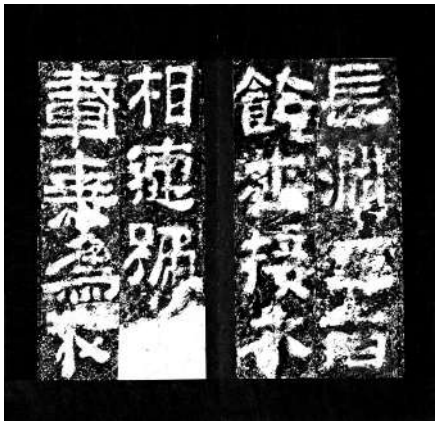
同　第二開

同　第三開

同　第四開



同　第五開



同　第六開

同　第七開

同　第八開

同　第二開

魯峻碑　碑陽第一開
（碑―漢―028）

同　第四開

同　第三開

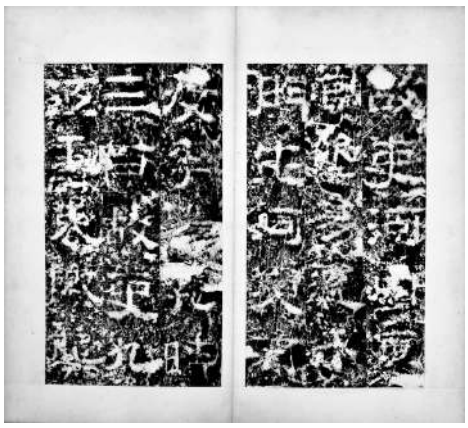
同　第六開

同　第五開

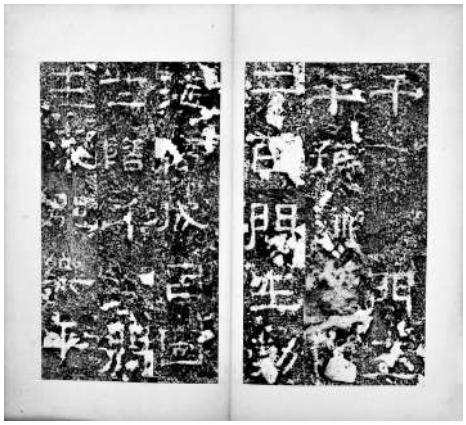
同　第八開

同　第七開

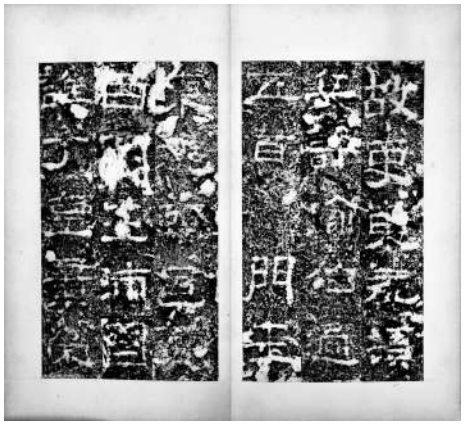
同　第二開



魯峻碑　碑陰第一開
（碑―漢―028）

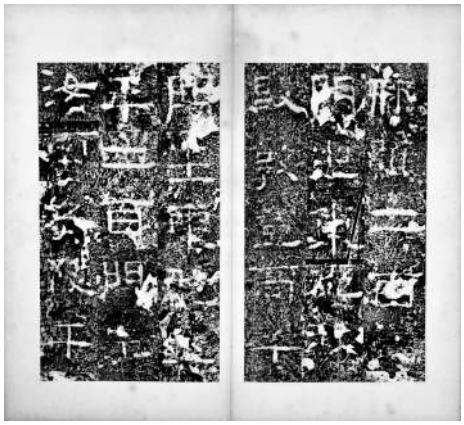


同　第四開

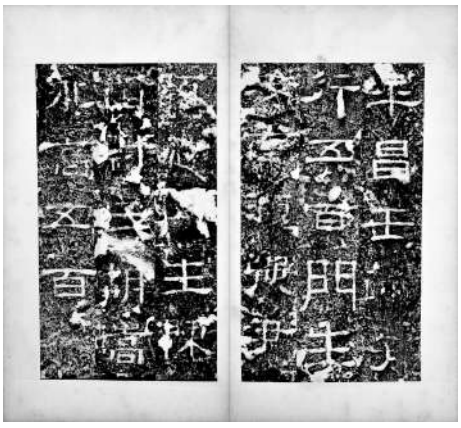


同　第三開

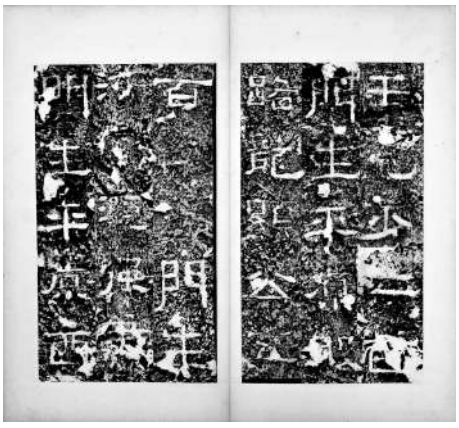
同　第六開



同　第五開

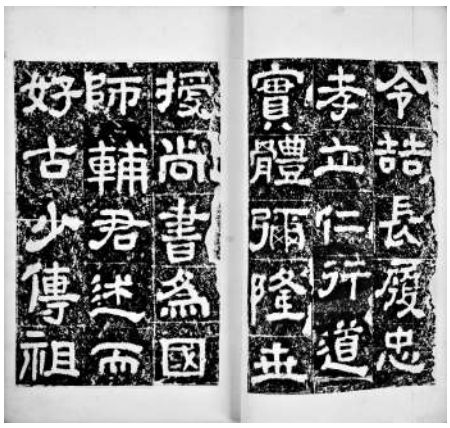


同　第八開



同　第七開

繁陽令楊君碑　第一開
（碑―漢―030）



同　第二開

同　第三開

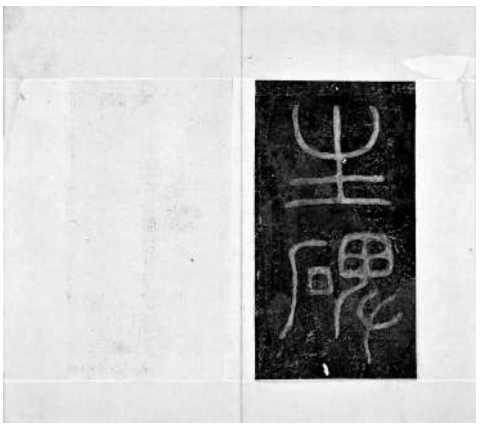
同　第四開

同　第五開

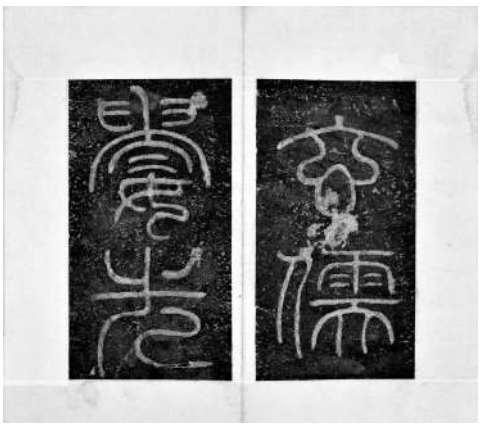
同　第六開

同　第七開

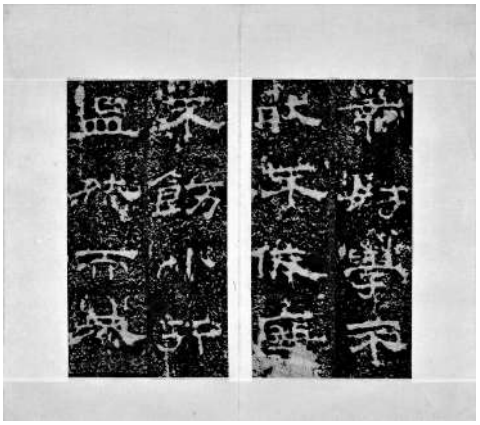
同　第八開



同　第二開



婁寿碑　第一開
（碑―漢―031）



同　第四開

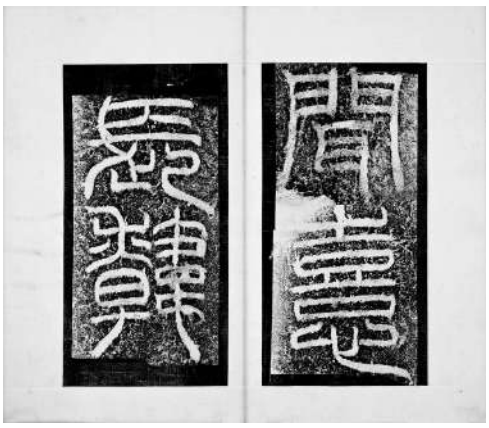
同　第三開

同　第六開

同　第五開

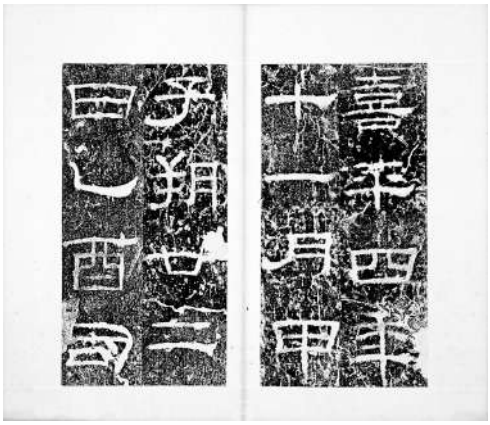
同　第八開

同　第七開

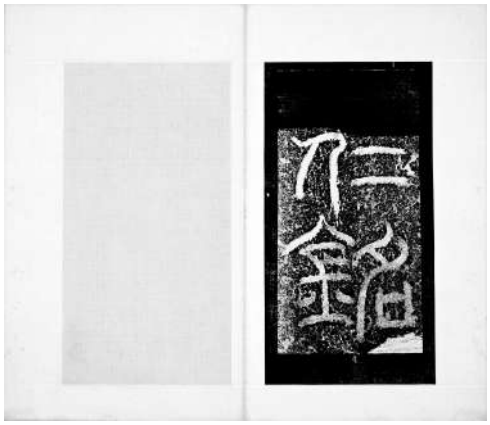


同　第二開

韓仁銘　第一開
（拓帖—114）



同　第四開



同　第三開

同　第六開

同　第五開

同　第八開

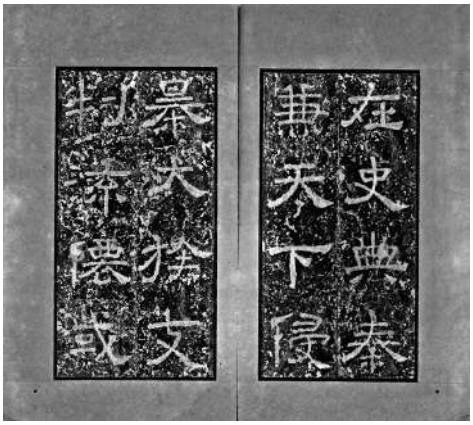
同　第七開

同　第二開

尹宙碑　第一開
（碑―漢―035）

同　第四開

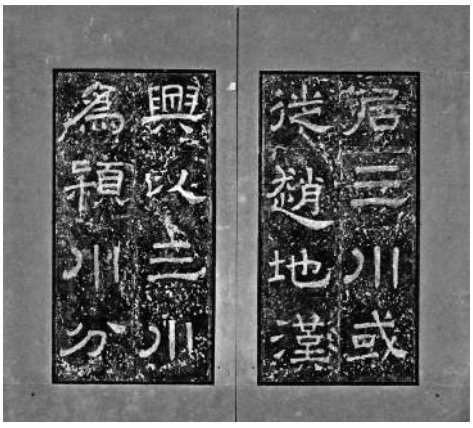
同　第三開



同　第六開

同　第五開

同　第八開



同　第七開

【主要収蔵印】

「丰五心賞」
（1.7×1.7cm）
（碑―漢―018　第十二開）

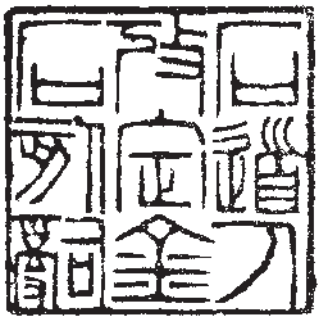
「両三竿竹之室」
（2.3×1.6cm）
（碑―漢―018　第六開）

「埶厂金石」
（2.2×1.0cm）
（碑―漢―018　第五開）

「石農審定」
（2.2×2.2cm）
（碑―漢―018　第一開）

「石農易山」
（1.2×1.2cm）
（碑―漢―018　題箋）

「硯奴」
（1.9×0.8cm）
（碑―漢―018　跋）



「石道人攷定金石刻詞辞」
（4.1×4.2cm）
（碑―漢―018　第十九開）

「附庸風雅」
（2.3×1.3cm）
（碑―漢―018　第十九開）

「有好都能累此生」
（2.5×1.4cm）
（碑―漢―018　第十三開）

「欽明八十後賞」
（3.0×1.8cm）
（拓帖―116　第二開）

「欽明八十後珍蔵」
（3.0×1.8cm）
（拓帖―116　第一開）

「半畝寄盧蔵去」
（2.7×2.7cm）
（碑―漢―021　第一開）

「黎華」
（1.5×1.5cm）
（碑―漢―020　第一開）

「野耘」
（0.9×0.9cm）
（碑―漢―020　題箋）

「雨華亭」
（1.2×1.2cm）
（碑―漢―035　第二十七開）

「飲谷眼福」
（1.8×1.8cm）
（碑―漢―030　跋）

「冊誥家蔵」
（2.7×2.3cm）
（碑―漢―029　第四十一開）

「楊」
（2.0×2.0cm）
（碑―漢―029　第四十一開）

「欽明」
（1.3×1.3cm）
（拓帖―116　第十三開）